

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

第2期揖斐川町まち・ひと・しごと創生推進計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

岐阜県揖斐郡揖斐川町

3 地域再生計画の区域

岐阜県揖斐郡揖斐川町の全域

4 地域再生計画の目標

本町の人口は、市町村合併を行った平成17年の26,192人をピークに減少しており、住民基本台帳によると令和7年には18,288人にまで落ち込んでいる。国立社会保障・人口問題研究所によると、令和42年には総人口が6,559人となる見込みである。【人口】

年齢3区分別の人口動態をみると、年少人口（0～14歳）は平成17年の3,256人をピークに減少し、令和7年には1,579人となり、平成17年の市町村合併以降増加の一途をたどっていた老年人口（65歳以上）も、平成29年の7,918人をピークに減少し、令和7年には7,628人となっているが、今後も引き続き少子高齢化が進むことが想定される。また、生産年齢人口（15～64歳）も平成17年の15,398人をピークに減少傾向にあり、令和7年には9,277人となっている。【年齢3区分別の人口】

自然動態をみると、出生数は平成20年の177人をピークに減少し、令和7年には46人となっている。その一方で、死亡数は令和7年には354人と増加の一途をたどっており、出生者数から死亡者数を差し引いた自然増減は▲308人（自然減）となっている。【総人口の自然動態】

社会動態をみると、平成17年の市町村合併以降転出超過が続いている中で、平成26年4月より過疎法第2条第1項による過疎地域の指定を受けるなど深刻な過疎化・高齢化が進むとともに、就労の場の不足や交通網の未整備が相まって若

年層を中心とした人口流出が続き、令和7年には▲71人の社会減となっている。このように、人口の減少は出生数の減少（自然減）や、転出者の増加（社会減）等が原因と考えられる。【総人口の社会動態】

今後も人口減少や少子高齢化が進むことで、地域における担い手不足やそれに伴う地域産業の衰退、さらには地域コミュニティの衰退等、住民生活への様々な影響が懸念される。【『地域の現状』の原因となる、地域の課題】

これらの課題に対応するため、町民の結婚・妊娠・出産・子育ての希望の実現を図り、自然増につなげる。また、移住や定住を促進するとともに、安定した雇用の創出や地域を守り、安心して住み続けられるまちづくり等を通じて、社会減に歯止めをかける。

なお、これらに取り組むに当たっては、揖斐川町に暮らす一人ひとりが、豊かな自然や歴史・文化などを保全継承しつつ、ふるさとへの誇りを持って暮らし続けられるよう、未来に向かって、それぞれの立場から知恵を出し合い、みんなの力やまちの魅力を「ぎゅっと」集め、いつまでも安心して住み続けたいまち、魅力あるまちを創っていくことを目指し、次の事項を本計画期間における基本目標として掲げ、目標の達成を図る。【『地域の課題』で分析した課題を解決するための取組】

- ・基本目標1 住み続けたいと思う層を創る
- ・基本目標2 住んでみたいと思う人を創る
- ・基本目標3 こどもや若者を主体とした暮らしを創る
- ・基本目標4 住んでよかったと実感できる地域を創る
- ・基本目標5 地域の活力を創る
- ・基本目標6 広域連携により圏域の新たな魅力を創る

【数値目標】

5-2の ①に掲げ る事業	K P I	現状値 (計画開始時点)	目標値 (12年度)	達成に寄与する 地方版総合戦略 の基本目標
ア	転出超過数	105	20	基本目標 1
イ	年間観光客数	136.3万人	150万人	基本目標 2
ウ	出生数	47	50	基本目標 3
エ	将来も現在の場所に住み 続けたいと思う住民の割 合	54.6%	70.0%	基本目標 4
オ	企業誘致件数	0	5	基本目標 5
カ	広域連携による起業等相 談件数	22	120	基本目標 6

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

5-2のとおり。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

- まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する
特例（内閣府）：【A2007】

① 事業の名称

揖斐川町まち・ひと・しごと創生推進事業

- ア 住み続けたいと思う層を創る事業
- イ 住んでみたいと思う人を創る事業
- ウ こどもや若者を主体とした暮らしを創る事業
- エ 住んでよかったと実感できる地域を創る事業
- オ 地域の活力を創る事業
- カ 広域連携により圏域の新たな魅力を創る事業

② 事業の内容

ア 住み続けたいと思う層を創る事業

定住化を促進するため、居住環境整備に対する経済的負担軽減を図りながら、商業施設の誘致など生活利便性の向上を図る。また、ライフステージやライフイベントに応じた支援を行い、住み続けたいと思えるサポートを実施する。

まちづくりに関する積極的な情報発信により、まちづくりへの関心を高めるとともに、地域づくりに取り組む団体等への支援により、町に愛着や誇りを持ち活躍する人づくりを進める。

【具体的な事業】

- ・移住・定住のための居住環境整備
- ・まちに愛着や誇りを持ち活躍する人を創る事業 等

イ 住んでみたいと思う人を創る事業

豊かな自然を感じられる体験プログラムやいびがわマラソンをはじめとする魅力満載のイベントなどを通して、多くの観光客が「揖斐川町」を観て、触れて、体験することで、関係人口・交流人口の拡大を図り、住んでみたいと思う人を創出する。また、「いびがわ暮らし」として、子育てや住宅取得、移住支援・Uターン支援などの各種支援制度を様々な媒体により発信する。

【具体的な事業】

- ・新たな観光の振興
- ・タウンプロモーションの推進 等

ウ こどもや若者を主体とした暮らしを創る事業

子育てのための経済的負担軽減を図りつつ、多様化する子育て世代のニーズへの対応や少子化対策を行うとともに、ヤングケアラーや児童虐待への対応など、こどもや若者に寄り添った支援体制の整備を図る。また、町の誇る豊かな自然環境の大切さを学ぶ木育、家庭・地域・学校が一体となったふるさと教育やICTを活用した情報教育など、揖斐川町

ならではの特色ある教育を実践することで、将来のまちづくりの主人公となるこどもを主体とした暮らしを創る。

【具体的な事業】

- ・結婚・出産・子育てへの切れ目のない支援
- ・地域資源を活かした特色ある教育の推進 等

エ 住んでよかったと実感できる地域を創る事業

高齢者や障がいのある人の社会参加を促進するため、地域福祉力の向上と活躍の場の拡大を図る。

また、防災や防犯など安心安全な地域づくりを推進するとともに、医療、福祉、買い物、公共交通など生活利便性の向上に努める。

【具体的な事業】

- ・地域共生社会の実現に向けた活動の推進
- ・時代に合った地域づくりの推進 等

オ 地域の活力を創る事業

東海環状自動車道岐阜県区間の全線開通や国道 417 号冠山峠道路の開通などを契機とし、企業誘致の推進や地域産業の振興を図る。また、農林業の担い手確保や育成支援、スマート農業の推進など農林業の振興に努める。

木育や森づくり活動を通じて、次世代へつなぐ人づくりと地域づくりを推進するとともに、適切な伐採と再生林など森林資源の循環利用を進め、林業の成長産業化や森林の持つ多面的な機能の発揮を促進する。

【具体的な事業】

- ・地域産業の振興と雇用の拡大
- ・明日につながる農林業の振興
- ・100 年先の森づくり 等

カ 広域連携による新たな魅力を創る事業

西美濃圏域の市町が互いに特長や強みを生かして高め合い、圏域全体

の魅力向上を図る。

【具体的な事業】

・広域連携による事業の推進 等

※なお、詳細は第3期揖斐川町まち・ひと・しごと創生総合戦略のとおり

③ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

4の【数値目標】に同じ。

④ 寄附の金額の目安

500,000千円（令和8年度～令和12年度累計）

⑤ 事業の評価の方法（PDCAサイクル）

毎年度8月に外部有識者等で構成する【揖斐川町まち・ひと・しごと創生総合会議】にて効果検証を行い、翌年度以降の事業の見直し等を行う。検証後速やかに揖斐川町公式ホームページ上で公表する。

⑥ 事業実施期間

令和8年4月1日から令和13年3月31日まで

6 計画期間

令和8年4月1日から令和13年3月31日まで